

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

ボランティア活動の実態と促進するための条件

2006年 1月

情報学部 広報学科 4年

橋本耕平

ボランティア活動の実態と促進するための条件
橋本耕平

目次

1 章 研究概要	・・・ 1
1 . 1 研究の背景と目的	・・・ 1
1 . 2 研究の方法	・・・ 1
(1) 進捗経緯	
(2) 調査の概要	
1 . 3 成果の概要	・・・ 2
2 章 研究の結果	・・・ 3
2 . 1 標本抽出に関する記述	・・・ 3
2 . 2 ボランティア参加経験の有無から見る違い	・・・ 4
(1) 故郷での近隣との交流度合	
(2) 他者の視線への関心度	
(3) まとめ	
2 . 3 ボランティア経験回数による違い	・・・ 6
(1) ボランティア参加回数	
(2) 近所付き合いの考え方	
(3) 実際の近所付き合い	
(4) ボランティアをしている友人や家族の有無	
(5) 生きがいの源泉	
(6) ボランティアのステレオタイプ	
(7) まとめ	
2 . 4 性別による違い	・・・ 1 1
(1) 世話好き度合	
(2) リーダーシップ度	
(3) ボランティアを続けてよかったこと	
(4) 何故今までボランティアに参加しなかったのか	
(5) ボランティアを続けたいか	
(6) まとめ	
3 章 まとめと今後の課題	・・・ 1 6
参考文献	・・・ 1 7
単純集計結果	・・・ 1 8

第1章 研究概要

1.1 研究の背景と目的

ボランティア（英 volunteer）とは、自発性に基づく活動、及びそれに携わる人のことをさす言葉である。もっぱら無報酬の活動を指すことが多い。日本では社会への奉仕活動の同義語として使われていることが多い。

近年、都市化による核家族化や個人主義の影響のため、町内会・自治会・消防団などが昔に比べて円滑に機能しなくなっているという。昔はこのような地縁によっての結びついた集団によって行われていた夜回りなども減っていった。昔はならあたりまえに行われていた隣近所との付き合いも希薄になっていき、隣の住人の顔すら知らないということが増えてきているという。

このような時代の流れにより、地縁による相互扶助の習慣（無意識のボランティアとも言えるだろう）が人々の中から薄くなったことから、ボランティアの重要性が高まっている。

2007年度から都立高校では「奉仕の時間」を義務化（純然たるボランティアとは言えないのかもしれないが）する予定になっていることから、ボランティア人口の拡大がのぞまれているようである。

今回、私は奉仕活動の同義語としてのボランティアについて調査をした。どのような人間がボランティア活動に積極的であるのか、またどのように仕向ければ日本のボランティア人口は拡大、活性化するのかを検証していきたい。

1.2 研究の方法

（1）進捗経緯

- ・ 9月：研究テーマ決定
- ・ 11月：調査票最終案完成
- ・ 同月：学内で調査票配布、回収。
- ・ 同月：回収した調査票の集計。
- ・ 12月：研究結果提出

（2）調査の概要

調査対象者は文教大学の学生の学生に授業中に配布した。

「コンピュータと通信」の授業で配布数60票、回収数60票、有効回答数60票。

「記号論入門」の授業で配布数43票、回収数43票、有効回答数42票。

「社会調査」の授業で配布数18票、回収数18票、有効回答数18票。

調査の意図

ボランティア活動に関する実態調査を主軸、近隣交流関係、他者への意識、家族や友人の効果、性別など比較することによって、ボランティア活動を促進するための基本的な条件、相性などを明らかにすることを目的としている。

主な質問項目

- ・ 団体ボランティア活動経験の有無・参加回数
- ・ ボランティアと聞いて連想することは何か
- ・ あなたは自分が世話好きだと感じているか
- ・ 他者から良い人であると思われたいか
- ・ 故郷（一番長く住んだ場所）は隣近所との交流が盛んであったか
- ・ 性別

1.3 成果の概要

ボランティア参加経験がある者は、無い者に比べて、故郷での近隣住民との交流が盛んであり、他者の視線を意識して良い人であると思われたい傾向にあるということがわかった。

そして、ボランティア参加回数が多い者は、少ない者に比べ、「近所同士助け合うことは当然」と考える傾向があり、故郷での近隣住民との交流度合も盛んであった。

さらに、ボランティア参加回数が多い人の方が、少ない人に比べ、「知人・友人との交流」など人との交流に対して、強く生きがいを感じていることがわかり、ボランティア参加回数が多い者は、他者への関心や意識が強い傾向にあることがわかった。

性別では女性のほうが集団内でのリーダーシップを強く持ち、ボランティア活動を楽しみながらしているという結果になった。

〔謝辞〕

本研究においては、調査の実施に際して多くの学生諸氏から回答を頂いた。この調査協力に対しては心から御礼申し上げる次第である。調査票を作成するまでの過程では、ゼミのメンバーをはじめとして、多くの方から示唆を頂いた。また研究の実施全般に対しては、指導教授のハッ橋先生から様々な示唆を頂いた。これらの皆様に対して、改めて謝意を表します。

2 章 研究の成果

2 . 1 標本抽出に関する記述

今回の回答標本は無作為抽出で作成していないため、母集団から見て標本に偏りが生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表 2 - 1 - 1 と表 2 - 1 - 2 で確認しておく。表 2 - 2 - 1 の学年別の分布では 1 年生 60.2%、2 年生 15.3%、3 年生 21.2%、4 年生 3.4%で、1 年生が回答者の 6 割を越える結果となった。また、性別の分布では男性 49.6%、女性 50.4%と女性の回答者が若干多かった。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかし、クロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されと考えられる。

表 2 - 1 - 1 回答者と母集団の比較

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
回答者	60.2% (71)	15.3% (18)	21.2% (25)	3.4% (4)	100% (118)
湘南キャンパス学生	24.4% (747)	26.1% (799)	23.2% (727)	25.8% (790)	100.0% (3063)

(注) 文教大学湘南キャンパス学生は 2006 . 10 末時点である。

表 2 - 1 - 2 回答者と母集団の比較

	男性	女性	合計
回答者	49.6% (59)	50.4% (60)	100.0% (119)
湘南キャンパス学生	56.5% (1730)	43.5% (1333)	100.0% (3063)

(注) 文教大学湘南キャンパス学生は 2006 . 10 末時点である。

なお、これ以降で「ボランティア」と表記するものについては、他の人と一緒になって行う団体でのボランティア活動のこととする。

2.2 ボランティア参加経験の有無から見る違い

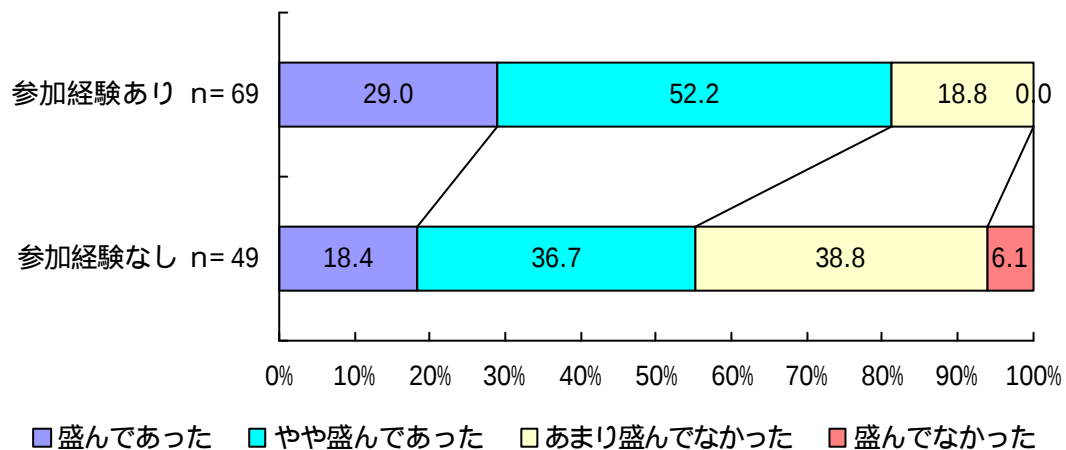
(1) 故郷での近隣との交流度合

図2-2-1は故郷(1番長く住んだ地域)では隣近所との交流は盛んであったかという問をボランティア活動の経験の有無別で集計したグラフである。

参加したことがあると答えたグループでは約8割が、盛んであった、やや盛んであった、と答えたのに対して参加経験がないグループでは6割弱程度であった。また、参加経験があるグループでは盛んでなかったという回答はなかったが、参加経験がないグループでは6.1%答えられていた。

このことから、育ってきた環境の違いでボランティア参加経験に差が出ることがわかる。

図2-2-1 ボランティア参加経験と故郷の近隣交流度合
(χ^2 検定 $p = .011$)



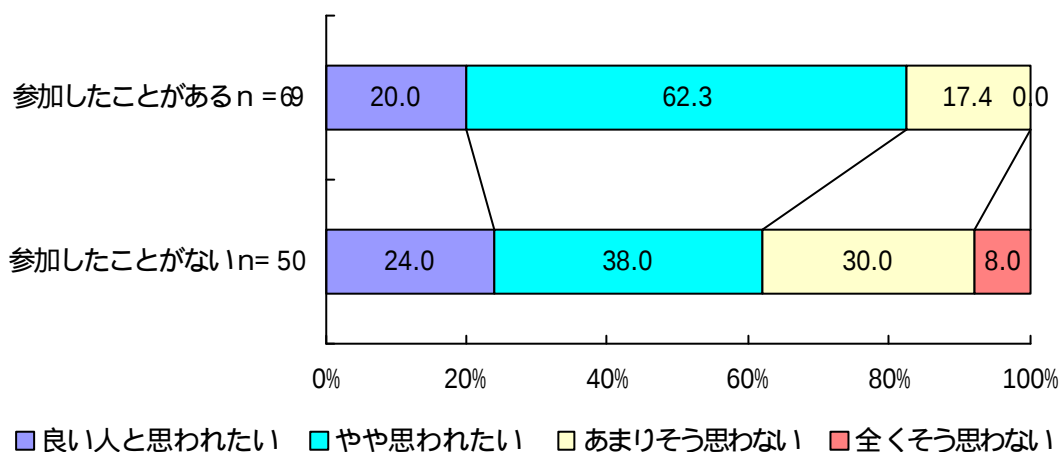
(2) 他者の視線への関心度

図2-2-2は「他者から良い人であると思われたいか」という問をボランティア活動の経験の有無別で集計したグラフである。

良い人と思われたいという回答には大差はなかったが、やや思われたいという回答で参加経験有のグループでは約6割が答え、参加経験無グループでは約4割にとどまった。逆に参加経験無グループでは、あまりそう思わない、全くそう思わないという回答が30%、8%づつあったが、参加経験有グループではあまりそう思わないが17.4%、全くそう思わないについては答えた回答者がいなかった。

このことから、ボランティア活動に参加したことがあると答えた回答者の方が、参加したことがないと答えた回答者よりも他者の視線を意識し、「良い人」と思われたい傾向にあることがわかる。

図2-2-2 ボランティア参加経験と他者視線意識度
(χ^2 検定 $p=0.012$)



(3) まとめ

ボランティアの経験の一部には他者の視線が一役買っている可能性がある。近隣交流が盛んな地域では、それだけ近隣住民という他者に好意を持たれたほうが良いために、ボランティア行事などがあったとしたら、たとえそれが自分の意思にそぐわなくても参加することがある。

もし、人々をボランティア活動に参加させたいのならば、参加を余儀なくされるような風潮を作れば良い。しかし、それが本質的なボランティア活動であるかは疑わしいところであるが。

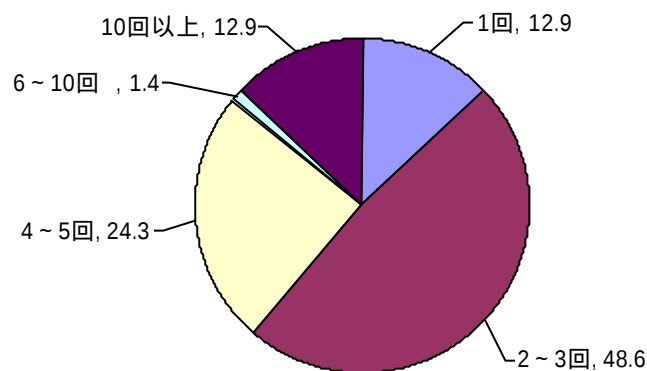
2.3 ボランティア経験回数による違い

(1) ボランティア参加回数

図2-3-1はボランティア活動経験があると答えた人に対して、ボランティア回数を答えてもらいそれをグラフにしたものである。

もっとも多いのが2～3回で約50%の回答が集中した。次いで4～5回の約25%が続く。6～10回が1.4%であるのに対して10回以上と回答した人が約13%いたことも興味深い。

図2-3-1 ボランティア参加回数 n=70



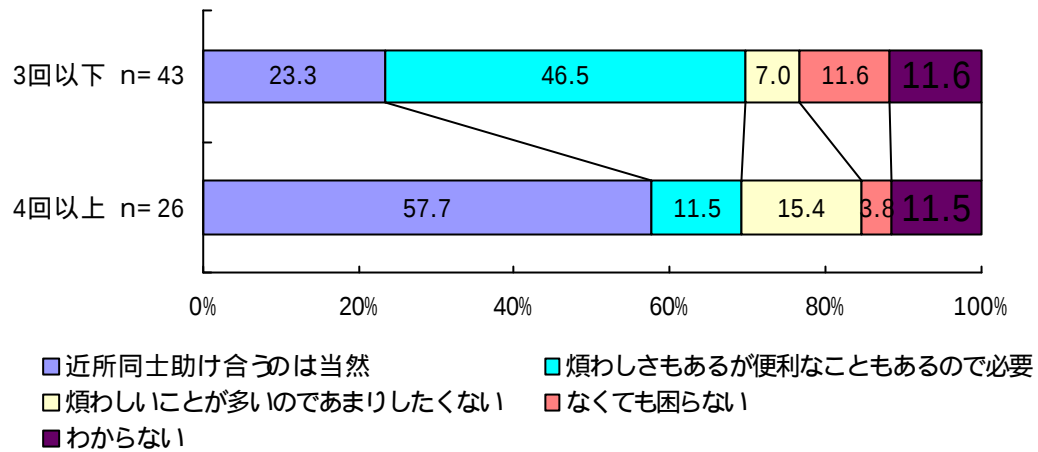
(2) 近所付き合いの考え方

図2-3-2は近所付き合いの考え方を、上記した団体でのボランティア参加回数3回以下と4回以上の2グループに分け、そのグループ別に集計したものである。

「近所同士助け合うのは当然」と考えている回答者は約58%と半数以上いたのに対して3回以下は約23%しかいなかった。

このことからボランティア参加回数が多いグループでは、少ないグループに比べて、近所同士助け合うことを当然で必要なものと考えていることがわかる。このような相互扶助の精神を持ち合わせているかどうかボランティア参加回数に反映されているのではないかと。

図2-3-2 ボランティア参加回数と近隣住民との付き合い方 (χ^2 乗 $p=0.009$)



(3) 実際の近所付き合い

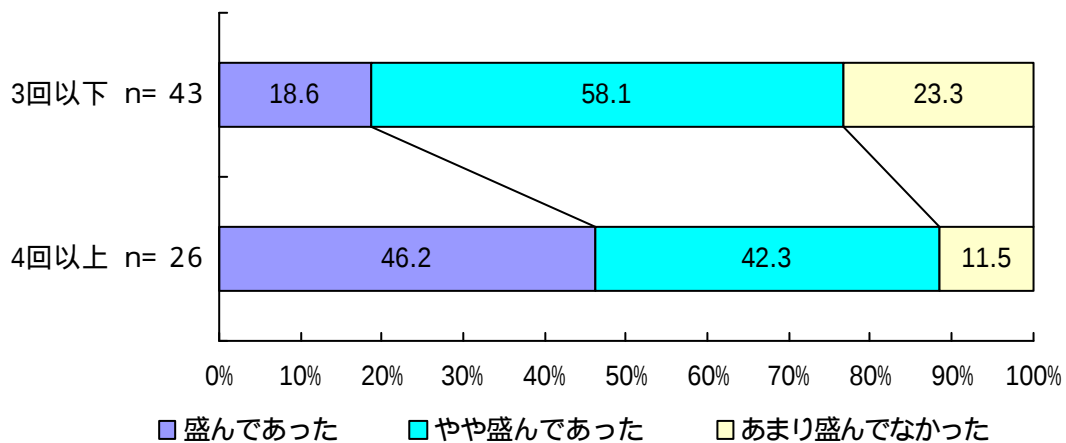
図2-3-3は故郷(1番長く住んだ地域)では隣近所との交流は盛んであったかという問を、上記で分けたグループ別に集計したものである。

3回以下グループでは「盛んであった」という答えが18.6%であったのに対して、4回以上グループでは46.2%と二倍以上の差があることがわかった。

「盛んであった」、「やや盛んであった」の合計でも3回以下グループでは8割弱であるのに対して4回以上グループでは約9割の回答があった。

このことから近隣との交流経験の割合によって、ボランティア参加回数が変わることがわかる。

図2-3-3 ボランティア参加回数と近隣交流度合 (χ^2 乗 $p=0.045$)



(4) ボランティアをしている友人や家族の有無

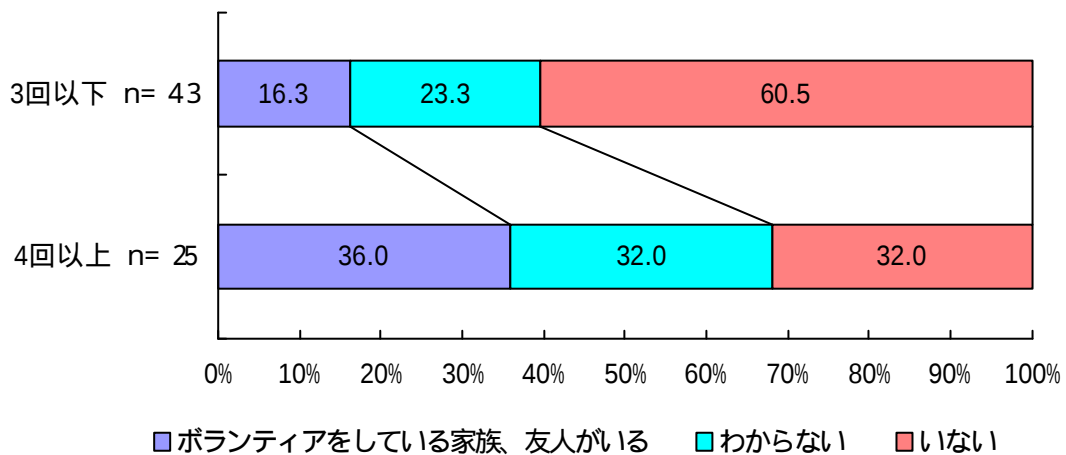
図2-3-4はボランティアをしている家族や友人はいるかという問を上記のボランティア参加回数を二区分したもので集計した。

特筆すべき点は3回以下のグループでは16.3%であった団体でのボランティアをしている家族や友人がいるという回答が、4回以上グループでは36.0%と2倍以上いたということであろう。

このことから、ボランティアに参加している家族や友人の影響も、ボランティア回数に少なからず影響を与えていることがわかる。

しかし、この集計は χ^2 乗検定の結果、惜しくも有意差が表れなかったことも記述しておくが興味深い結果には変わりはない。

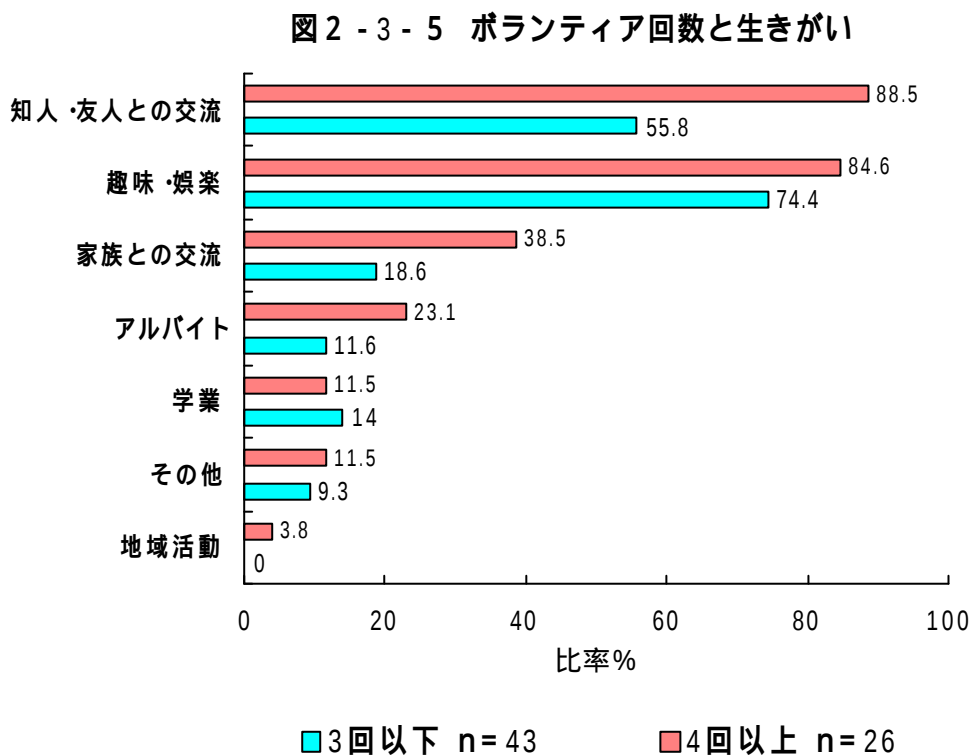
図2-3-4 ボランティア参加回数と参加している家族、友人の有無
(χ^2 乗 $p=0.060$)



(5) 生きがいの源泉

図 2 - 3 - 5 は何に生きがいを感じるかという複数回答の問を、ボランティア参加回数二区分で集計したものである。

全体を通して言えることは 4 回以上グループの方が、3 回以下グループより多くのことに生きがいを感じているということだろう。取り分け、知人・友人との交流では約 30 %、家族との交流という項目では 20 % と大きな差が出た。これはボランティア回数の多い人の方がより人とのつながりを重要視しているという表れと考えられる。



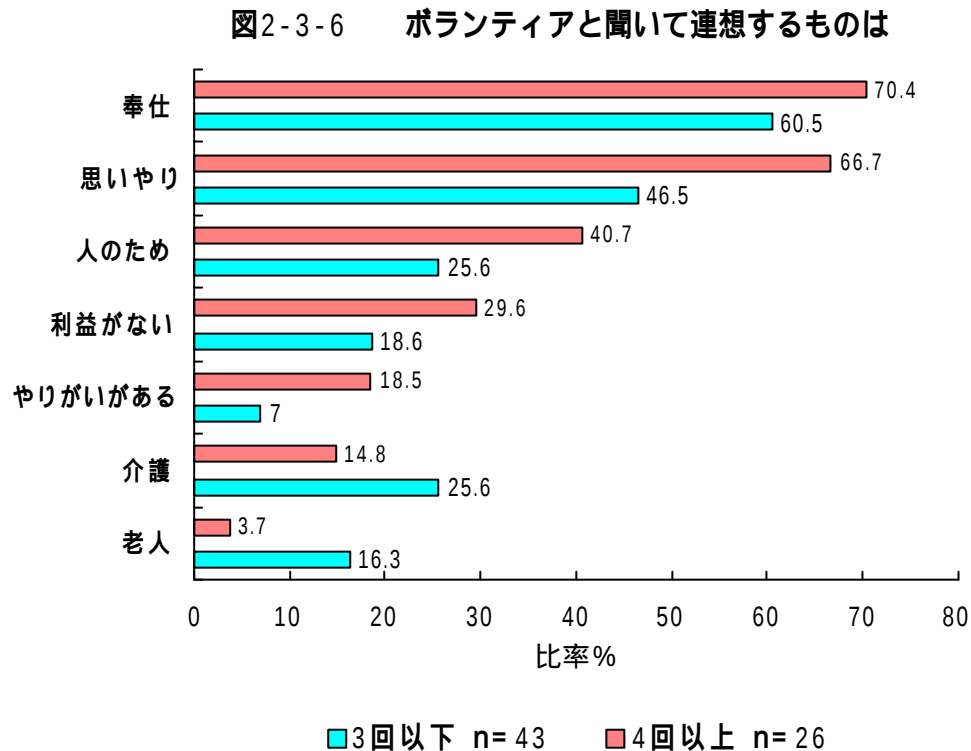
(6) ボランティアのステレオタイプ

図 2 - 3 - 6 は、「ボランティア」という単語を聞いて連想することは、という複数回答の問をボランティア参加回数二区分で集計したものである。ここではグループ間で約 10 % 以上の差が出たものだけ記述する。

まず言えることは「奉仕」「思いやり」「人のため」など他者への奉仕精神に関連する言葉に差が出ている。特に「思いやり」という項目では約 20 % もの差が出た。これは多くの実践を踏むことで学ぶことなのであろう。

逆に 3 回以下グループでは、「介護」「老人」という項目に 4 回以上グループに比べて 10 %

以上高いという結果が出た。この結果は世間的に蔓延しているボランティアのステレオタイプが原因であると考えられる。実際のボランティア活動は多岐に亘るものであり、決して介護などだけではない。自分の趣味や特技を教えることなどもボランティアである。自分にできるボランティア活動もあると教えることによって、ボランティア人口は大きく増えるだろう。



(7) まとめ

ここではボランティア回数が多い人ほど、回数が少ない人より他者との関係を大切にしようと考えているということが言える。それは特に図2-2-5のグラフで表れたような結果や、図2-3-6の結果にも表れているだろう。

なぜこのような結果がもたらされたのか、大きな要因としてやはり育ってきた生活環境というものがあるのだろう。ボランティア回数が多い人は故郷の地域コミュニティが盛んで、その影響下で育ったので近所づきあいに肯定的で、人付き合いにもなれているし、その重要性も知っている。それに加え家族や知人の影響もあり、そのためボランティア活動にも積極的になったと考えられる。

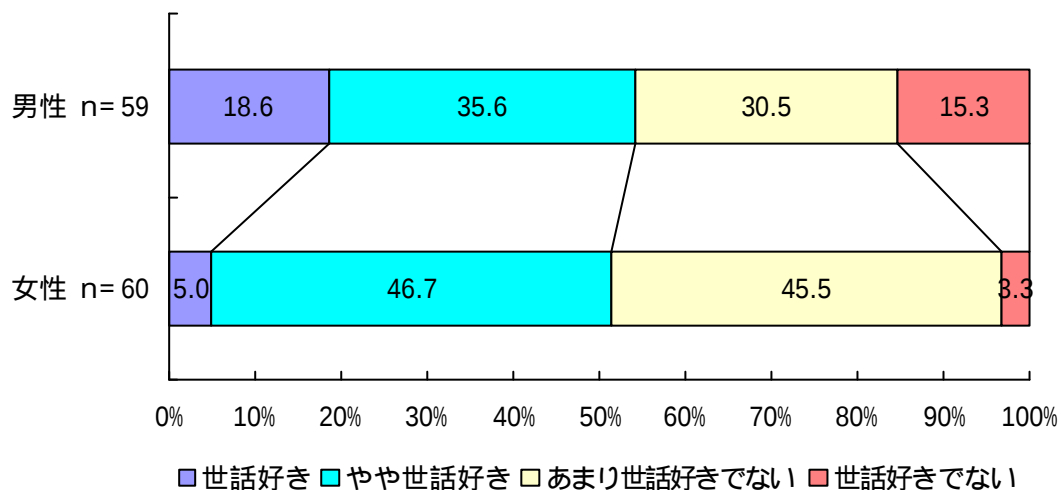
2.4 性別による違い

(1) 世話好き度合

図2-4-1は自分が世話好きであると思うかという問を性別に集計したものである。男性ではとてもそう思うと答えた約19%であったのに対して女性では5%しかいなかった。しかし、全く思わないと答えたのも男性では約15%であったのに対して、女性では約3%であった。

このことから、男性は女性に比べ、誰かを世話することの好き嫌いがはっきりしていることがわかる。

図2-4-1 性別と世話好き度合 (χ^2 検定 $p=0.008$)

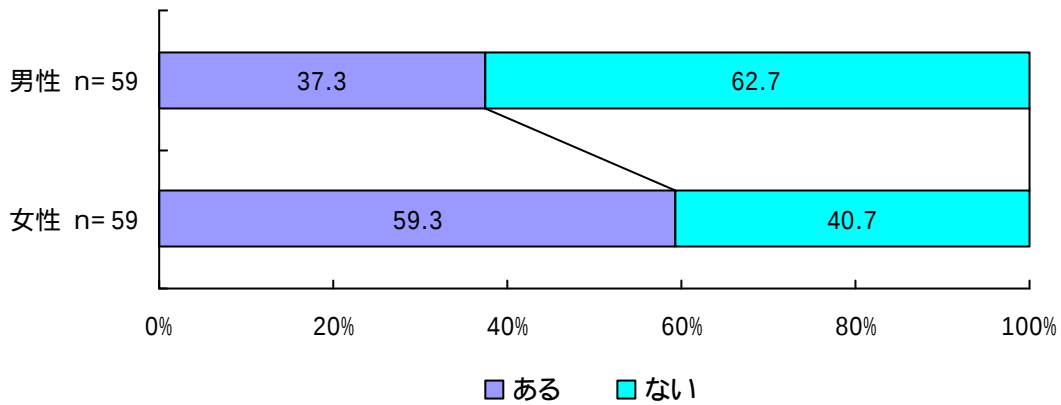


(2) リーダーシップ度

図2-4-2は自主的に人をまとめる立場に立候補したことがあるかという問を性別に集計したものである。

この結果を見ると男性は4割弱しか立候補の経験がないのに対して女性は約60%の人が立候補の経験があるという結果になった。図2-4-1の結果では男性の方が女性より「世話好き」と答えが多かったのにそれは何故だろうか。考えられることは、人をまとめる立場への立候補の必要を迫られた時、男性に比べ女性の方が仕方なく立候補する人が多いということであろう。

図2-4-2 自主的に人をまとめる立場への立候補経験
(χ^2 乗 $p=0.013$)

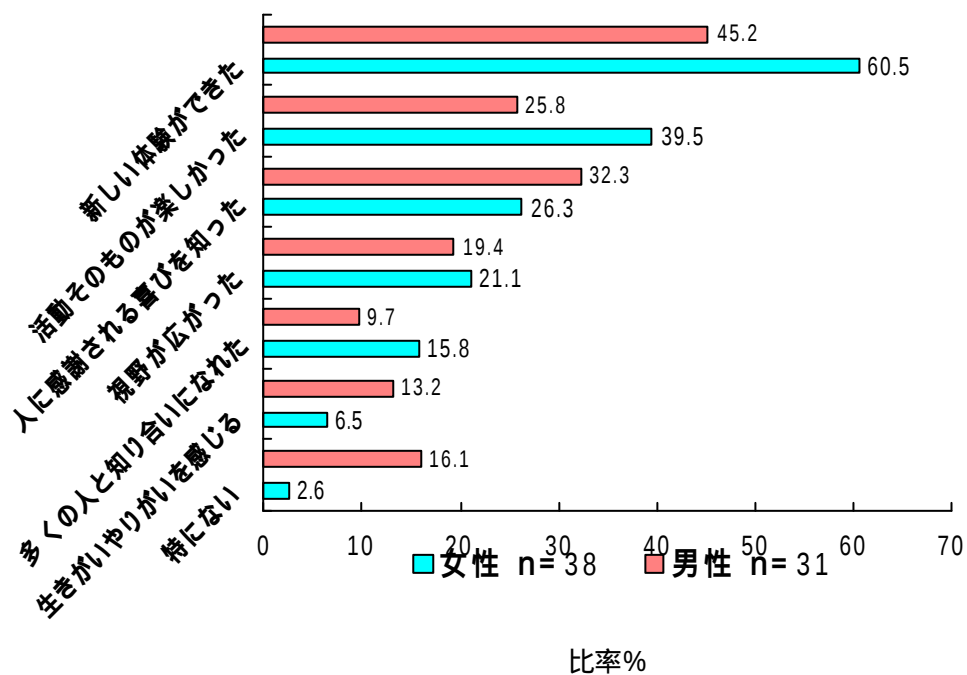


(3) ボランティアを続けてよかったこと

図2-4-3はボランティアをしてよかったという問を性別で集計したものの中の主要なものをグラフ化したものである。

全体を通して言えることは、女性のほうがボランティア活動を楽しんでいるということがわかる。顕著な例をあげるならば「特にない」と回答した人が男性では16.1%もいたのに対し、女性ではたった2.6%しかいなかった

図2-4-3 ボランティアしてよかったと思うことは



(4) 何故今までボランティアに参加しなかったのか

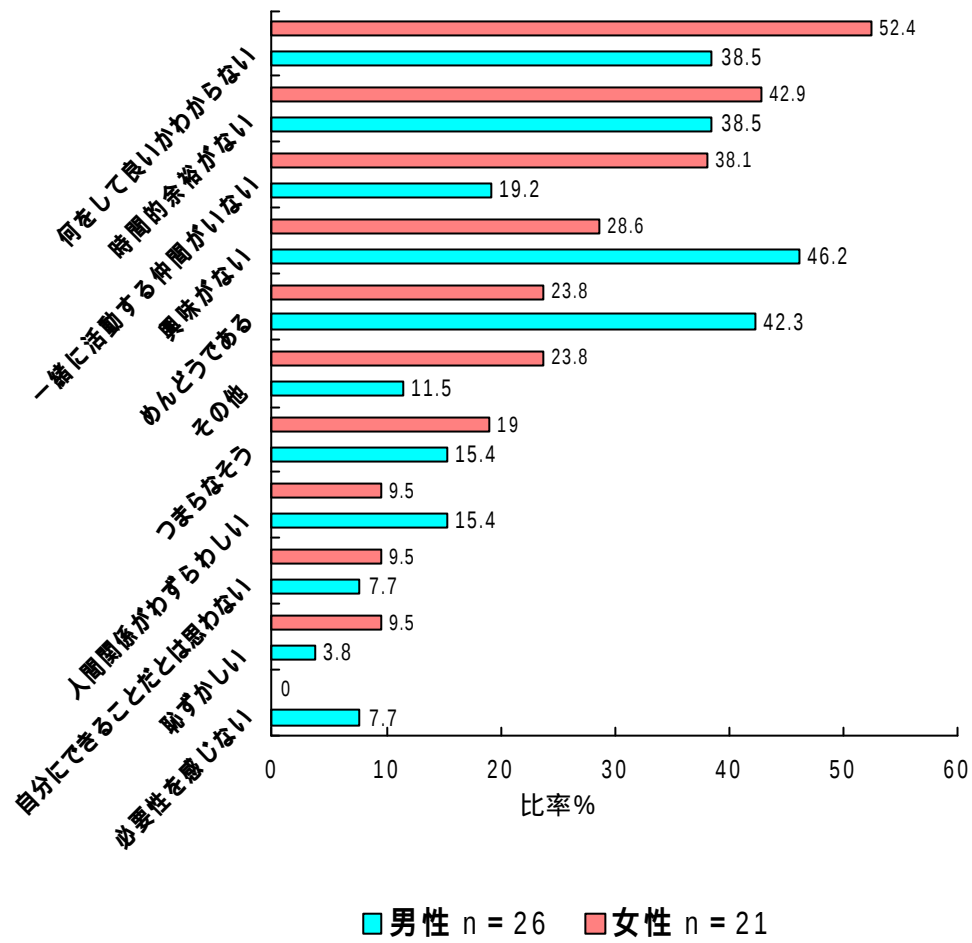
図 2 - 4 - 4 では、団体でのボランティア活動経験のない人に対して「なぜ今まで団体でのボランティア活動に参加しなかったのか」という質問をし、それを性別に集計したものである

女性でもっとも多い回答を得たのは、「何をして良いかわからない」という項目で、女性 52.4%、男性でも 38.5%もの回答があった。ボランティア人口を増やすためにはまず、ボランティアの受け手がしてもらいたい活動を明示する、またはボランティア活動を指導するものの存在が必要であることの表れであろう。

女性と男性で大きく差が出たものとして「一緒に活動する仲間がいない」という項目がある。女性では 38.1%もの回答があったのに対し、男性では 19.2%ほどにとどまった。全ての女性にあてはまることではないが、概して女性は集団で行動することを好んでいるように思われる。「トイレに行くにも一緒に行きたがるのが女」という例えもあるほどであるからして見逃せない結果となった。

男性でもっとも多い回答を得たものは、「興味がない」という項目で 46.2%であった。これは女性の 28.6%に比べることで男女間に大きな差があることがわかる。この項目に似たような「めんどろである」に回答した者は男性で 42.3%、女性で 23.8%と約 2 倍もの差が出た。ボランティア人口拡大のためには男性に対するアピールも重要であると思われる。

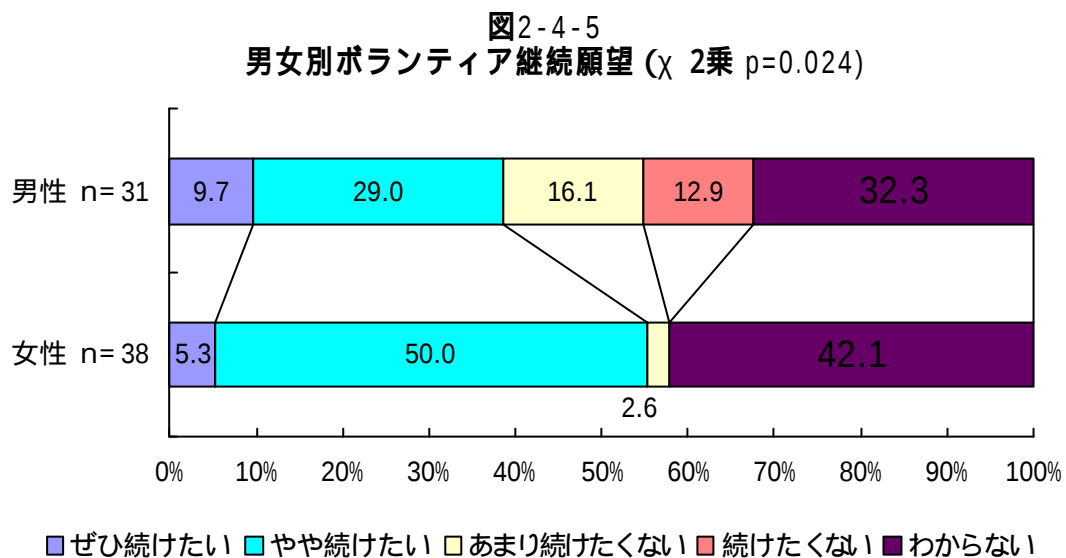
図2-4-4 何故今まで団体ボランティアに参加しなかったのか



(5) ボランティアを続けたいか

図2 - 4 - 5 は、ボランティア経験のある人に対して行った「これから先団体ボランティアを続けたいか」という問を性別で集計したものである。

男性では「ぜひ続けたい」「やや続けたい」という継続願望が約40%にとどまったのに対し、女性では約55%もの人が継続願望を持っていることがわかる。



(6) まとめ

男性と女性のどちらがボランティア活動に向いているのかといえば、女性のほうであるといえるだろう。男性よりも自主性に優れていることは本来のボランティア活動を行うのに際して重要なことであると考えられるし、男性よりもボランティア活動自体を楽しんでいるという結果もある。そして何よりもボランティア活動を継続したいという願望が男性よりも高いということが一番の証拠になるだろう。

そして女性が向いているボランティアの種類も、個人で行うボランティアではなく、団体で行うボランティアに向いているのだろう。結論として、ボランティア人口拡大のためには男女の習性のようなものも生かせるボランティアの土壌をつくらなければならないということである。

第3章 まとめと今後の課題

今回の調査でわかったことは、ボランティア人口を拡大させるためにはまずは生活環境を変えていくことが効果的と考えられる。昔と比べ現代は都市化の影響が進んでいるため地域住民同士の相互扶助があまり円滑に行われていない。昔は、近隣住民と付き合いも盛んであったため、困ったときは助け合うという考えが無意識のうちに人々の中にあったと思われる。それは今までが助け合わなければ生きていけない時代だったからかもしれない。比べて現代の日本は物質的に豊かな時代である。そのため近隣と助け合わなくても生きてはいけるので地域での相互扶助が少なくなっていくと考えられる。もちろん移動手段の確立や、仕事の様式が農業や漁業など一つの地域に根付かなければいけないものからサービス業などの地域を転々することも可能なものに代わっていき、それによる人々の移動が増えたことで地域コミュニティをうまく作ることができないという理由もあるだろう。

それに加え、現代の個人主義化の影響もあるのかもしれない。居住空間を例に挙げると、昔は平屋など割と他者の視線にオープンなものであったのに対して、現代はマンションなどの閉じた空間が多い。さらに近隣住民との交流が減ってきているため、見知らぬ近隣住民への不信任感が募り、より閉じた生活になっていくのではないかと考えられる。

あと、性別や個人の属性にあうボランティアをうまく紹介することも大切なことである。例えば女性であれば知人と一緒に参加できるようにあつせんするというようなことをすることも大切であると思う。それにボランティアが無償の行動である必要はない。アメリカなどではボランティア活動をしたものに多少の賃金がでることもある。調査票の問10の「もし、大学で『ボランティア活動に参加した学生には単位を与える』という制度が出来たとしたら、どう思いますか。」という質問をしたところ、6割を超える学生がボランティア活動に参加して単位をもらいたいと回答した。人はきっと無償では行動しない。現在ボランティア活動をしている人も満足感などの精神的な報酬を得て活動しているのだろう。ならば、精神的に満足感を得られない人々に対しては物質的な報酬を、精神的に報酬を得ている人々に対しても、より満足感を得てもらうために物質的にも報酬を与えるというのも決して悪いとは思わない。

反省点としては調査票の問2「あなたは団体でのボランティア活動に参加したことがありますか。」において「ボランティア活動に参加したことがある(している)」と答えた回答者が58.3%であったのに対して、問8「今までに学校行事でボランティア活動を行ったことはありますか」において「ある」と答えた回答者が80.8%で問2とは20%以上も差があった。学校行事でのボランティア活動が個人活動であったと考えられなくもないが、20%以上の差は大きすぎる。この問題は学校でのボランティア活動を、真のボランティア活動であると認識していない学生がいたからではないかと考えられる。

参考文献

木原孝久 『福祉の人間学入門』 本の泉社 2002

井上千津子 『介護福祉とは何か』 一ツ橋出版 1998

佐世保市 『ボランティアに関するアンケート調査』 2002

http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AC020000&WIT_oid=icityv2::Contents::2925&q=

東京電力テポレート 「ボランティア」に関するアンケート 2005

<http://www.tepore.com/koe/050929/index.htm>

フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia) 『ボランティア』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2>

大学生のボランティア活動（奉仕活動）についての調査

情報学部 広報学科 ハッ橋ゼミナール 橋本耕平

* 卒業研究の調査です。無記名ですので率直にお答えください *

問 1 . 下記からあなたがボランティアであると思う行動に○を付けてください。(いくつでも○)

n=120

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 . 団体での奉仕活動 95.8 | 2 . 乗り物の中で席をゆずる 10.8 |
| 3 . 迷っている人に道を教える 17.5 | 4 . 介助を必要としている人の手助け 60.0 |

* ここからは団体での（他の人と一緒に行う）ボランティア活動についてお聞きます。*

問 2 . あなたは団体でのボランティア活動に参加したことがありますか。(1 つだけ○) n=120

- | |
|--|
| 1 . ボランティア活動に参加したことがある（している）→付問 1 へ 58.3 |
| 2 . ボランティア活動に参加したことがない→付問 7 へ 41.7 |

付問 1 今まで何回くらいボランティア活動に参加したことがありますか。(1 つだけ○) n=70

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1 . 1 回 12.9 | 2 . 2 ~ 3 回 48.6 | 3 . 4 ~ 5 回 24.3 |
| 4 . 6 ~ 10 回 1.4 | 5 . 10 回以上 12.9 | |

付問 2 今まで、どのようなボランティア活動に参加したことがありますか。(いくつでも○) n=70

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 . 話し相手、介護など高齢者支援活動 34.3 | 2 . 手話、点訳、介助など障害者支援活動 5.7 |
| 3 . 子育て支援・青少年健全育成活動 5.7 | 4 . 清掃、ゴミ拾いなどの地域美化活動 82.9 |
| 5 . 観光案内 1.4 | 6 . 国際交流活動 1.4 |
| 7 . 男女共同・人権・平和活動 0.0 | 8 . 交通安全、防災・防犯活動 8.6 |
| 9 . チャリティイベントやオリンピックなどのスタッフ活動 12.9 | |
| 10 . 自分の趣味や特技を教える活動（パソコン初心者への学習指導など）5.7 | |
| 11 . 被災地での炊き出し、家屋の片付けの手伝いなどの災害時支援活動 2.9 | |
| 12 . 植樹、草刈、花壇作りなどの緑化・環境保全活動 25.7 | |
| 13 . その他 11.4 | |

付問 3 あなたが初めてボランティア活動に参加した時の主な理由やきっかけは何ですか。

(いくつでも○) n=70

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 . 身近に必要とする人がいたから 7.1 | 2 . 友人・知人をつくりたかったから 0.0 |
| 3 . 社会のために何か役立ちたかったから 10.0 | 4 . 生きがいが欲しかったから 0.0 |
| 5 . 時間に余裕があったから 8.6 | 6 . 自分の勉強のため 8.6 |
| 7 . 親・友人・知人に勧められたから 20.0 | 8 . 学校の行事に参加して 67.1 |
| 9 . ボランティア経験者に勧められて 2.9 | 10 . 地域のイベントに参加して 25.7 |
| 11 . 学校での単位取得や評価を上げるため 17.1 | |
| 12 . 立場上やむをえなかったから 8.6 | 13 . 誰も活動する人がいなかったから 1.4 |
| 14 . 自分の技術、能力、経験を生かしたかったから 2.9 | 15 . 特になし 4.3 |

付問4 ボランティア活動をしてよかったと思われることはありますか。(いくつでも○)n=70

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 生活にはりができた 1.4 | 2. 新しい体験ができた 52.9 |
| 3. 生きがい・やりがいを感じる 10.0 | 4. 自分自身が健康になった 2.9 |
| 5. 活動そのものが楽しかった 32.9 | 6. 多くの人と知り合いになれた 12.9 |
| 7. 人に感謝され喜びを感じた 28.6 | 8. 視野が広がった 20.0 |
| 9. 知識や技術を習得できた 5.7 | 10. 特になし 10.0 |

付問5 これから先、団体でのボランティア活動を続けたいと思いますか。(1つだけ○)n=70

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. ぜひ続けたい→問3へ 7.1 | 2. やや続けたい→問3へ 40.0 |
| 3. あまり続けたくない→付問6へ 8.6 | 4. 続けたくない→付問6へ 5.7 |
| 5. わからない→問3へ 38.6 | |

付問6 団体でのボランティア活動を続けたいと思わない主な理由は何ですか。(いくつでも○)n=9

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 時間的に余裕がない 66.7 | 2. 健康上の問題 0.0 |
| 3. 一緒に活動する仲間がいない 22.2 | 4. 人間関係がわずらわしい 11.1 |
| 5. 自分にできることだとは思わない 11.1 | 6. 何をしてもいいかわからない 11.1 |
| 7. 必要性を感じない 0.0 | 8. 興味がない 22.2 |
| 9. めんどくさそう 44.4 | 10. つまらなさそう 0.0 |
| 11. はずかしい 0.0 | 12. その他 11.1 |

付問6 が終わった方は問3へ

* 問2で「2. 参加したことがない」と答えた方だけ付問7にお答え下さい。*

付問7 今までに団体でのボランティア活動をしなかったのはどうしてですか。(いくつでも○)n=50

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 時間的に余裕がない 38.0 | 2. 健康上の問題 0.0 |
| 3. 一緒に活動する仲間がいない 26.0 | 4. 人間関係がわずらわしい 12.0 |
| 5. 自分にできることだとは思わない 8.0 | 6. 何をしてもいいかわからない 42.0 |
| 7. 必要性を感じない 4.0 | 8. 興味がない 36.0 |
| 9. めんどくさそう 32.0 | 10. つまらなさそう 16.0 |
| 11. はずかしい 6.0 | 12. その他 16.0 |
| | 無回答 6.0 |

問3 団体でボランティア活動をしている家族や友人はいますか。(1つだけ○)n=120

- | | | | |
|------------|-------------|---------------|---------|
| 1. いる 18.3 | 2. いない 52.5 | 3. わからない 25.0 | 無回答 4.2 |
|------------|-------------|---------------|---------|

問4 個人として下記のボランティア活動を行ったことはありますか。(いくつでも○)n=120

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 話し相手、介護など高齢者支援活動 5.0 | 2. 手話、点訳、介助など障害者支援活動 0.8 |
| 3. 子育て支援・青少年健全育成活動 0.8 | 4. 清掃、ゴミ拾いなどの地域美化活動 17.5 |
| 5. 観光案内 0.0 | 6. 国際交流活動 1.7 |
| 7. 男女共同・人権・平和活動 0.0 | 8. 交通安全、防災・防犯活動 1.7 |
| 9. チャリティーイベントやオリンピックなどのスタッフ活動 2.5 | |
| 10. 自分の趣味や特技を教える活動(パソコン初心者への学習指導など) 3.3 | |
| 11. 被災地での炊き出し、家屋の片付けの手伝いなどの災害時支援活動 0.8 | |
| 12. 植樹、草刈、花壇作りなどの緑化・環境保全活動 6.7 | |
| 13. その他 3.3 | 14. 活動したことがない 65.0 |
| | 無回答 6.7 |

ここからは団体・個人に関わらずボランティアについてお聞きします

問5 下記の活動の中で団体・個人に関わらず、これからしてみたい活動はありますか。(いくつでも○) n=120

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. 話し相手、介護など高齢者支援活動 8.3 | 2. 手話、点訳、介助など障害者支援活動 6.7 |
| 3. 子育て支援・青少年健全育成活動 8.3 | 4. 清掃、ゴミ拾いなどの地域美化活動 11.7 |
| 5. 観光案内 10.8 | 6. 国際交流活動 9.2 |
| 7. 男女共同・人権・平和活動 5.0 | 8. 交通安全、防災・防犯活動 1.7 |
| 9. チャリティーイベントやオリンピックなどのスタッフ活動 21.7 | |
| 10. 自分の趣味や特技を教える活動(パソコン初心者への学習指導など) 17.5 | |
| 11. 被災地での炊き出し、家屋の片付けの手伝いなどの災害時支援活動 7.5 | |
| 12. 植樹、草刈、花壇作りなどの緑化・環境保全活動 7.5 | |
| 13. その他 8.3 | 14. 活動したくない 29.2 |
| 無回答 5.0 | |

問6 ボランティアと聞いて連想するものはなんですか。(いくつでも○) n=120

- | | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|----------------|-------------|
| 1. 無償 55.8 | 2. 人助け 56.7 | 3. 奉仕 60.0 | 4. 偽善 10.8 | 5. 介護 20.0 |
| 6. 優しさ 36.7 | 7. 思いやり 48.3 | 8. 自発的 26.7 | 9. 老人 9.2 | 10. 募金 26.7 |
| 11. 面倒くさい 7.5 | 12. やりがいがある 8.3 | 13. 利益がある 2.5 | 14. 利益がない 21.7 | |
| 15. 自分のため 9.2 | 16. 人のため 35.8 | 17. 集団 19.2 | 18. 個人 0.8 | 19. その他 3.3 |
| 無回答 2.5 | | | | |

問7 あなたや家族、友人が、これまでボランティアの人から手助けをしてもらった経験がありますか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| 1. ある 10.0 | 2. ない 54.2 | 3. わからない 35.8 |
|------------|------------|---------------|

問8 今までに学校行事でボランティア活動を行ったことはありますか。(1つだけ○) n=120

- | | |
|------------|------------|
| 1. ある 80.8 | 2. ない 19.2 |
|------------|------------|

問9 あなたが考えるボランティアで活動できる範囲はどこまでですか。(1つだけ○) n=120

- | | | | |
|-------------------|---------------|------------|-----------|
| 1. 近所(自宅周辺) 19.2 | 2. 市内 30.8 | 3. 県内 17.5 | 4. 国内 0.8 |
| 5. 特に範囲は限らない 20.8 | 6. わからない 10.8 | | |

問10 もし、大学で「ボランティア活動に参加した学生には単位を与える」という制度が出来たとしたら、どう思いますか。(1つだけ○) n=120

- | |
|--------------------------------------|
| 1. ボランティア活動に参加し、単位をもらいたい 61.7 |
| 2. ボランティア活動はするが、単位をもらおうとは思わない 4.2 |
| 3. 単位がもらえるとしてもボランティア活動をしようとは思わない 4.2 |
| 4. このような制度は納得できない 17.5 |
| 5. わからない 11.7 |
| 無回答 0.8 |

ここからはあなた自身のことについてお聞きします

問11. あなたは、現在の生活に満足していますか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|-----------------|--------------------|-----------------|
| 1. 十分満足している 2.5 | 2. だいたい満足している 64.2 | 3. やや不満である 16.7 |
| 4. 不満である 9.2 | 5. わからない 7.5 | |

問12. あなたは何に生きがいを感じますか。(いくつでも○) n=120

- | | | | |
|----------------|-------------------|------------|---------------------|
| 1. 家族との交流 30.8 | 2. 知人・友人との交流 64.2 | 3. 学業 11.7 | 4. 地域活動 2.5 |
| 5. 趣味・娯楽 77.5 | 6. アルバイト 18.3 | 7. その他 9.2 | 8. 特になし 5.0 無回答 0.8 |

問13. あなたの近所づきあいの考え方は、次のどれに一番近いですか。(1つだけ○) n=120

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 近所に住む人同士が、助け合うのは当然 35.0 |
| 2. わずらわしさはあるが、日常生活に便利なこともあるので必要 31.7 |
| 3. わずらわしいことが多いので、あまりしたくない 11.7 |
| 4. 近所づきあいは、なくても困らない 8.3 |
| 5. わからない 12.5 無回答 0.8 |

問14. 自分の周りに困っている人がいたらあなたは、何かしたいと思いますか。(1つだけ○) n=120

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 自分にできることをする 57.5 | 2. 誰かと一緒になってする 9.2 |
| 3. 何かしたいが、なかなかできない 25.8 | 4. かかわりたくない 2.5 |
| 5. わからない 4.2 | 無回答 0.8 |

問15. あなたは、大学のイベントや自分の住む地域のイベントなどに参加されていますか。(1つだけ○) n=120

- | | | | |
|-------------|------------------|-------------------|---------|
| 1. 参加する 8.3 | 2. とくとき参加する 45.8 | 3. まったく参加しない 44.2 | 無回答 1.7 |
|-------------|------------------|-------------------|---------|

問16. 今まで自主的に人をまとめる立場(部やサークルや生徒会などの役職、学級委員など)に立候補したことがありますか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1. ある 47.5 | 2. ない 50.8 | 無回答 1.7 |
|------------|------------|---------|

問17. あなたは自分が世話好きだと思いますか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 1. とてもそう思う 11.7 | 2. ややそう思う 40.8 | 3. あまり思わない 37.5 |
| 4. 全く思わない 9.2 | 無回答 0.8 | |

問18. あなたは他者から「良い人である」と思われたいですか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 1. とてもそう思う 21.7 | 2. ややそう思う 51.7 | 3. あまり思わない 22.5 |
| 4. 全く思わない 3.3 | 無回答 0.8 | |

問19. あなたの故郷(一番長く住んだ場所)は隣近所との交流が盛んでしたか。(1つだけ○) n=120

- | | | |
|----------------|------------------|--------------------|
| 1. 盛んであった 24.2 | 2. やや盛んであった 45.0 | 3. あまり盛んでなかった 26.7 |
| 4. 盛んでなかった 3.3 | 無回答 1.7 | |

問20. 新聞やテレビなどでニュースを見ますか。(1つだけ○) n=120

- | | | | |
|--------------|--------------|---------------|--------------|
| 1. よく見る 35.8 | 2. 時々見る 54.2 | 3. あまり見ない 7.5 | 4. 全く見ない 1.7 |
| 無回答 0.8 | | | |

問21. 特定の宗教の信仰はありますか。(1つだけ○) n=120

1. ある 3.3	2. ない 95.8	無回答 0.8
-----------	------------	---------

F1. 性別 n=99

1. 男性 49.2	2. 女性 50.0	無回答 0.8
------------	------------	---------

F2. 学年 n=99

1. 1年生 59.2	2. 2年生 15.0	3. 3年生 20.8	4. 4年生 3.3	無回答 1.7
-------------	-------------	-------------	------------	---------

調査は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。